

【研究資料】

柔道整復師養成課程に所属する大学生と専門学校生の 柔道整復師に対する意識の相違について (第2報)

—2014 から 2017 年度入学生に対するアンケート調査より—

服部 辰広¹⁾, 久保山和彦¹⁾, 猪越 孝治¹⁾, 樋口 毅史¹⁾, 松田 康宏²⁾, 伊藤 譲¹⁾

¹⁾ 日本体育大学保健医療学部整復医療学科運動器外傷学研究室

²⁾ 日体柔整専門学校

The study of university and technical school freshmen in judo-therapist development courses concerning discrepancies in future prospects (The 2nd report)

Tatsuhiko HATTORI, Kazuhiko KUBOYAMA, Takaharu INOKOSHI, Takeshi HIGUCHI,
Yasuhiro MATSUDA and Yuzuru ITOH

Abstract: This study was conducted to provide more in-depth information on the differences in the way university and technical school students think about their future careers in the same field. The burden of judo-therapist training has been placed on the shoulders of technical schools for many years. However, new judo-therapist training schools have been established and in operation since 2002, including the Nippon Sport Science University, placing the number of specialty schools at 14. Bearing this in mind, a study to determine the discrepancies in the future prospects of university and technical school students in judo-therapist development courses was initiated. The results of the study revealed that, when compared with technical school students, the number of university students who intended to open up judo-therapy clinics in the future was low, while the number looking to become a trainer was quite high. This study shows that there is indeed a discrepancy in the prospect of licensing between university students and technical school students.

要旨: 柔道整復師の育成は専門学校が長年役割を担ってきた。しかし、2002年以降柔道整復師を養成する大学が新たに設立され、2014年には日本体育大学を含め14校の柔整大学が存在している。このような背景の中、柔道整復課程に属する大学生と専門学校生の意識の相違を調査の目的としてアンケートを実施した。調査の結果から、大学生は専門学校生に比べ、将来接骨院の開業志向が低く、トレーナー志望が強いことがわかった。また、大学生は柔道整復師の資格に対しても専門学校生に比べ取得意識が低い学生がおり、両者の間に資格に対する意識の違いが認められた。

(Received: October 24, 2017 Accepted: December 7, 2017)

Key words: questionnaire, judo-therapist, university students, technical school students

キーワード: アンケート調査, 柔道整復師, 大学生, 専門学校生

1. はじめに

1932年に「大阪接骨学校」(現、大阪行岡医療専門学校長柄校)が、我が国最初の柔道整復師養成施設として設立されて以来、約70年に渡り柔道整復師の養成は専門学校がその中心を担ってきた。しかし、2002年に明治鍼灸大学(現、明治国際医療大学)医療技術短

期大学部柔道整復学科が開設されたことを契機に柔道整復師の養成課程を有する大学が徐々に増え、現在では14大学15学部(短期大学含む)が存在している(表1)。厚生労働省の発表¹⁾によると2015年度の大学定員は949名であり、これは柔道整復師養成全体の約11%を占めている。

柔道整復師を養成するという点においては、大学教

表1 柔道整復師養成課程を有する大学一覧（2017年4月1日）

	大学名	学部名	学科名	開設年	定員	キャンパス所在地
1	明治国際医療大学	保健医療学部	柔道整復学科	2002	40	京都府
2	帝京平成大学	ヒューマンケア学部	柔道整復学科	2004	89	東京都
		健康医療スポーツ学部	柔道整復学科	2008	60	千葉県
3	了徳寺大学	健康科学部	整復医療・トレーナー学科	2006	60	千葉県
4	帝京大学	医療技術学部	柔道整復学科	2008	90	栃木県
5	帝京短期大学		ライフケア学科	2008	90	東京都
6	関西医療大学	保健医療学部	ヘルスプロモーション整復学科	2008	40	大阪府
7	東京有明医療大学	保健医療学部	柔道整復学科	2009	60	東京都
8	帝京科学大学	医療科学部	柔道整復学科	2009	30	山梨県
		医療科学部	東京柔道整復学科	2010	90	東京都
9	常葉大学	健康プロデュース学部	健康柔道整復学科	2010	30	静岡県
10	宝塚医療大学	保健医療学部	柔道整復学科	2011	60	兵庫県
11	環太平洋大学	体育学部	健康学科	2012	60	岡山県
12	東亜大学	人間科学部	スポーツ健康学科	2012	※1	山口県
13	上武大学	ビジネス情報学部	スポーツ健康マネジメント学科	2014	※2	群馬県
14	日本体育大学	保健医療学部	整復医療学科	2014	90	神奈川県

※1 スポーツ健康学科の中に柔道整復コースを含め4コースがあり、学科全体の定員数が80名

※2 スポーツ健康マネジメント学科の中に柔道整復コースを含め3コースがあり、学科全体の定員が195名

表2 大学の主な役割²⁾

<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な知識基盤社会を支えるための多様性を持った高等教育の場 2. 自立過程にある若者に対する社会人としての素養の涵養と個人の人生の満足度を高めるための出発点 3. グローバリゼーションに対応する国力向上のための多様で活力ある原動力の源泉 4. 地域社会に貢献する人材育成と学生を原動力とした地域社会の発展の核 5. 地域社会における生涯学習の場と知的コミュニティの創造 6. 男女共同参画社会の実現を目指す人材の育成 7. 日本の文化・芸術の発展とスポーツの振興の中核

育と専門学校教育との間に大きな差はない。しかし大学教育には表2に示す通り多様な役割も求められており²⁾、職業教育を中核とした専門学校とは性質を異にする。従って柔道整復師養成課程に所属する大学生の意識は、専門学校生とは異なっている可能性が考えられるが、両者の意識の相違を比較、検討した報告は極めて少なくその詳細は明らかになっていない。以前に我々は、同一法人内に異なる学校種の柔道整復師養成課程が存在するという特性を生かし、大学生と専門学校生の柔道整復師に対する意識の相違を報告した³⁾。その後3年間に渡り追加調査を実施し、合計4年分のデータを収集したので、その結果について報告する。

2. 方法

2014年から2017年に、日本体育大学保健医療学部整復医療学科（以下、整復医療学科）へ入学した1年生391名と日体柔整専門学校柔道整復科（以下、日体柔整）へ入学した1年生235名に対し、入学直後に柔道整復師に対する意識調査アンケートを実施した（表3）。実施に際してはアンケートの目的を説明し、同意を得た学生のみ回収を行った（回収率：整復医療学科98.7%（386名）、日体柔整100%（235名））。回収したアンケート結果については統計Web SSRI⁴⁾を用いて2群の母比率差の検定を行い、大学生と専門学校生の意識の相違を比較検討した。

表3 整復医療学科および日体柔整の新生生に対する意識調査アンケート用紙

(1) あなたの年齢、性別、所属、学歴を教えてください

- 1、年齢：_____ 2、性別：_____ 3、所属：_____
4、最終学歴： a 高卒 b 大卒 c 大学院卒 d 専門学校卒

(2) あなたの将来の目標を教えてください(複数回答可)

- 1、柔整師として開業
2、柔整師として接骨院勤務
3、柔整師として病院、整形外科等に勤務
4、トレーナーとして勤務
5、柔整師として介護分野に勤務
6、柔整師としてスポーツジムなどに就職
7、柔整師の資格にこだわらず一般企業に就職
8、現段階では明確な目標はない
9、その他

(3) トレーナーとして勤務することを目標としている方に質問します

- 1、公認 AT の資格取得方法を具体的に考えている
2、公認 AT の資格を取得したいと思うが具体的な見通しはない
3、公認 AT の資格がどのようなものかよくわからない
4、公認 AT の資格を取得するつもりはない
5、どうしたらトレーナーになれるのかよくわからない
6、その他

(4) 柔道整復師の資格取得について質問します

- 1、卒業時に国家試験を受験し、万が一不合格だった場合でも合格するまで毎年受験したい
2、卒業時に国家試験を受験するが、就職状況によっては不合格であった場合再受験はしない
3、現時点で国家試験を受験するかどうかかわからない
4、国家試験を受験するつもりはない
5、その他

(5) 日本体育大学保健医療学部にも所属している方に質問します

進学先に専門学校ではなく大学を選んだ理由はどれですか(複数回答可)

- 1、自分が大学卒の経歴を望んだため
2、親に勧められたため
3、専門学校に比べカリキュラムが充実している
4、高校の先生に勧められたため
5、接骨院の先生に勧められたため
6、部活動を継続したかったため
7、アルバイトや趣味に費やす時間が多いため
8、あまり明確な理由はない
9、その他

(6) 日体柔整専門学校にも所属している方に質問します

進学先に大学ではなく専門学校を選んだ理由はどれですか(複数回答可)

- 1、既に大学を卒業、あるいは大学在学中である
2、親に勧められたため
3、大学に比べカリキュラムが充実している
4、高校の先生に勧められたため
5、接骨院の先生に勧められたため
6、早く柔整師の資格を取りたい
7、金銭的な理由
8、あまり明確な理由はない
9、その他

(7) 柔道整復師の業務についてあなたが考える仕事の内容を一つ選んでください

- 1、接骨院は骨折、脱臼、捻挫、打撲などの怪我を積極的に治療すべきである
2、骨折、脱臼に関しては現実的にはレントゲンが必要なため、整形外科主導で治療し、捻挫や打撲を中心に治療をおこなうべきである
3、怪我の治療よりもスポーツ障害や慢性的な痛みの治療に特化すべきである
4、治療よりも予防に重点をおいた方がよい
5、怪我の初期治療は整形外科で行い、リハビリ施設として特化すべきである
6、よく分からない
7、その他

表4 アンケート対象者の年齢、性別、学歴

		整復医療	日体柔整
入学者数		391	235
アンケート回収者数		386 (98.7%)	235 (100%)
平均年齢		18.2 (±1.5)	20.0 (±4.6)
性別	男性	227 (58.8%)	159 (67.7%)
	女性	159 (41.2%)	76 (32.3%)
学歴	高卒	385 (99.7%)	198 (84.3%)
	大卒	1 (0.3%)	31 (13.2%)
	大学院卒	-	1 (0.4%)
	専門卒	-	5 (2.1%)

尚、本研究は日本体育大学倫理審査委員会の承認(承認番号 第014-H83号)を得て実施した。

3. 結果

1) アンケート対象者の年齢、性別、最終学歴について(表4)

整復医療学科の平均年齢は18.2歳(±1.5)、性別は男性227名、女性159名で男女比は1.4:1であった。日体柔整の学生は平均年齢が20.0歳(±4.6)、男性159名、女性76名であり、男女比は2.1:1であった。最終学歴については整復医療学科が1名を除く385名が高卒であったのに対し、日体柔整では高卒者が235名中198名で、高卒以外の学生が一定数存在していた。高卒者数を全体の総数で除した高卒者率は整復医療学科が99.7%、日体柔整が84.3%であった。

2) 将来の目標について(図1)

将来の目標について、整復医療学科ではトレーナーとして勤務を希望する学生が最も多く、その割合は386名中287名(74.4%)であった。一方で接骨院開業や接骨院へ勤務することを希望する学生はそれぞれ145名(37.6%)、172名(44.6%)であり、トレーナー希望と比べると大きな開きがあった。日体柔整の学生に対する同様の調査では、接骨院開業を目標とする学生が最も多く235名中116名(49.4%)であり、次いで接骨院勤務を希望する学生が113名(48.1%)、トレーナー希望の学生が110名(46.8%)であった。両群の検定においては接骨院開業、トレーナーとして勤務、その他の項目において有意差を認めた。

3) トレーナーの資格について(図2)

トレーナーとして勤務を希望する学生397名(整復医療学科287名、日体柔整110名)に対し、日本体育協会公認アスレティックトレーナー(以下、公認AT)の資格取得について調査を行った。整復医療学科では公認ATの資格取得を具体的に考えている学生が64名(22.3%)、具体性はないが公認ATの資格を取得したい学生が182名(63.4%)であったのに対し、日体柔整ではそれぞれ18名(16.4%)、49名(44.5%)であり、公認AT取得の意識は大学生で高い傾向がみられた。一方、公認ATの資格がよく分からない、公認ATは取得しないと答えた学生の割合は整復医療学科19名(6.6%)、7名(2.4%)に対し、日体柔整では22名(20.0%)、6名(5.5%)と2倍以上の割合であった。

4) 柔道整復師の資格取得について(図3)

卒業時に柔道整復師国家試験(以下、国家試験)を

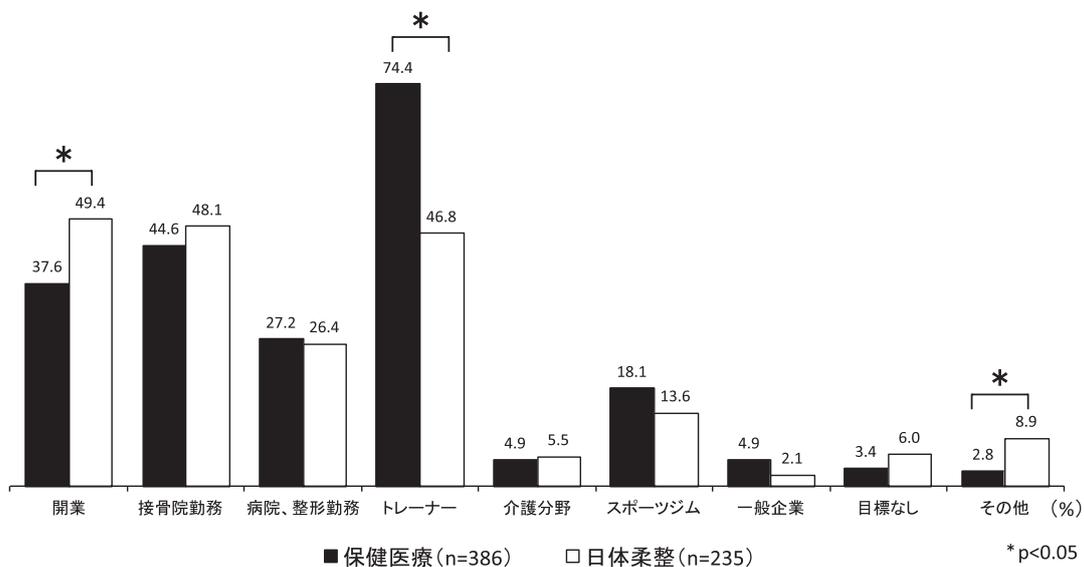


図1 将来の目標について

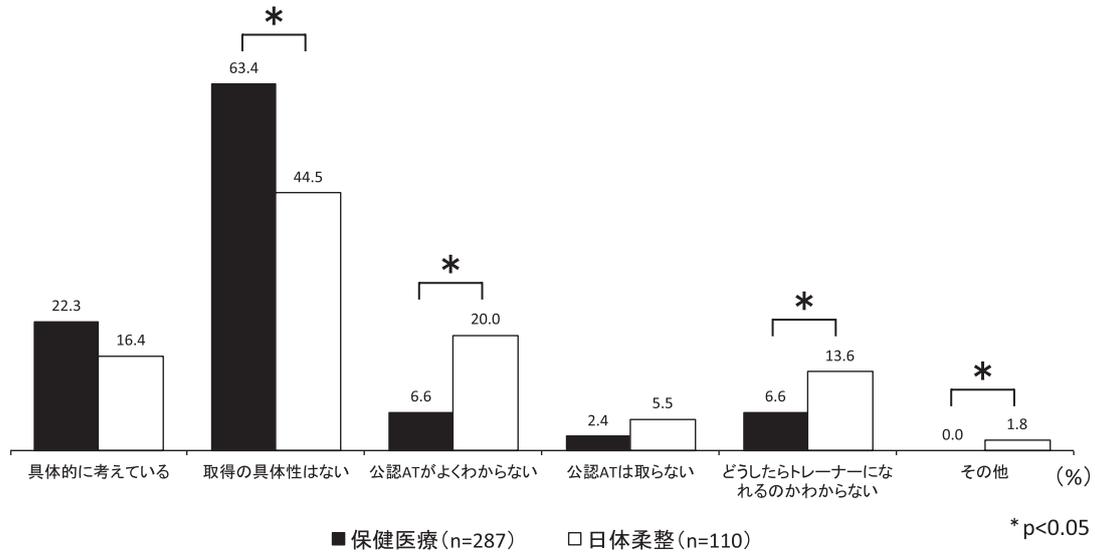


図2 トレーナーの資格について

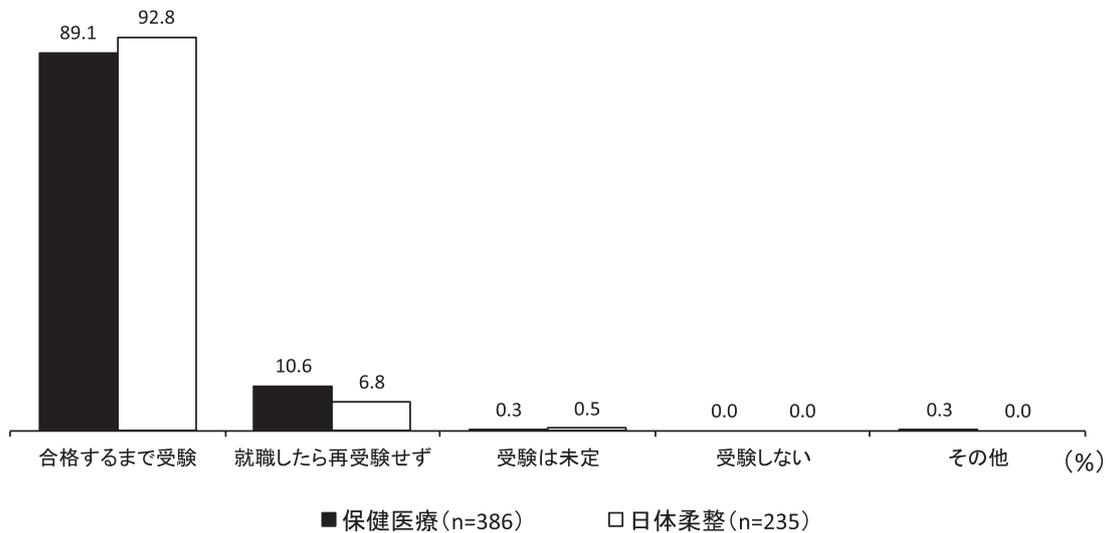


図3 柔道整復師の資格取得について

受験し、不合格であった場合の対応について調査した。日体柔整では235名中218名(92.8%)が国家試験に合格するまで受験を続けると答えたのに対し、整復医療学科では継続受験の意思を示した学生は386名中344名(89.1%)であり、やや少ない傾向がみられたが有意差は認めなかった。

5) 大学あるいは専門学校を進学先に選んだ理由について(図4~6)

進学先に大学を選んだ理由として最も多かったのは大学卒業の経歴であり235名(60.9%)が回答していた。次いで部活動の継続が150名(38.9%)、カリキュラムの充実が121名(31.3%)であった。専門学校への進学理由で最も多かった回答は柔道整復師国家資格の早期

取得であり、102名(43.4%)であった。以下、カリキュラムの充実61名(26.0%)、金銭的理由42名(17.9%)、高等学校の教諭の勧め40名(17.0%)の順であった。

尚、大学あるいは専門学校を選んだ理由のうち共通する項目について比較した結果、柔道整復師からの勧めにおいて有意差がみられた。

6) 柔道整復師の業務について(図7)

整復医療学科、日体柔整ともに半数以上の学生が、柔道整復師の業務は骨折、脱臼などの外傷治療にあると回答していた(整復医療学科208名(53.9%)、日体柔整129名(54.9%))。それ以外の項目についても概ね類似した結果が見られたが、外傷や障害の予防に対する認識は整復医療学科の方が有意に高かった。

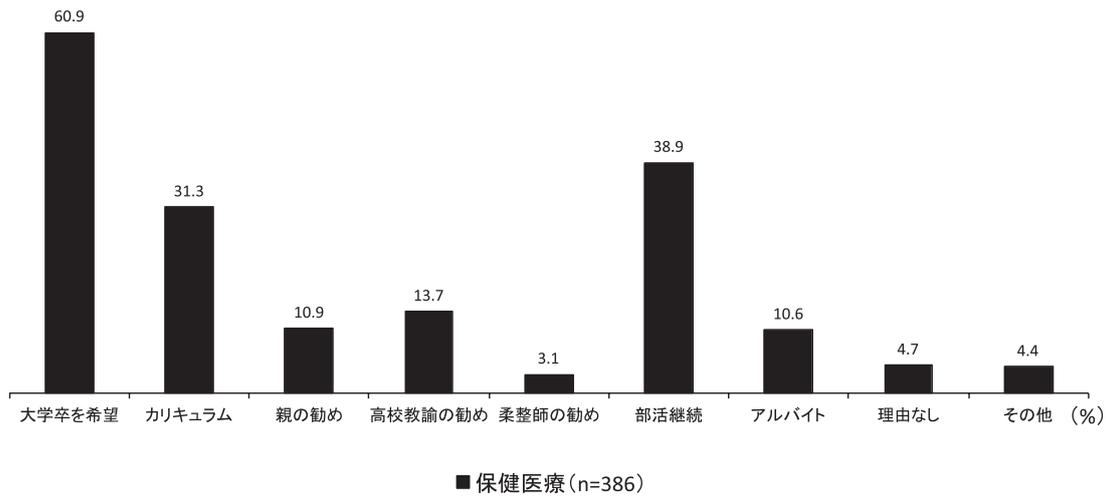


図4 大学への進学理由

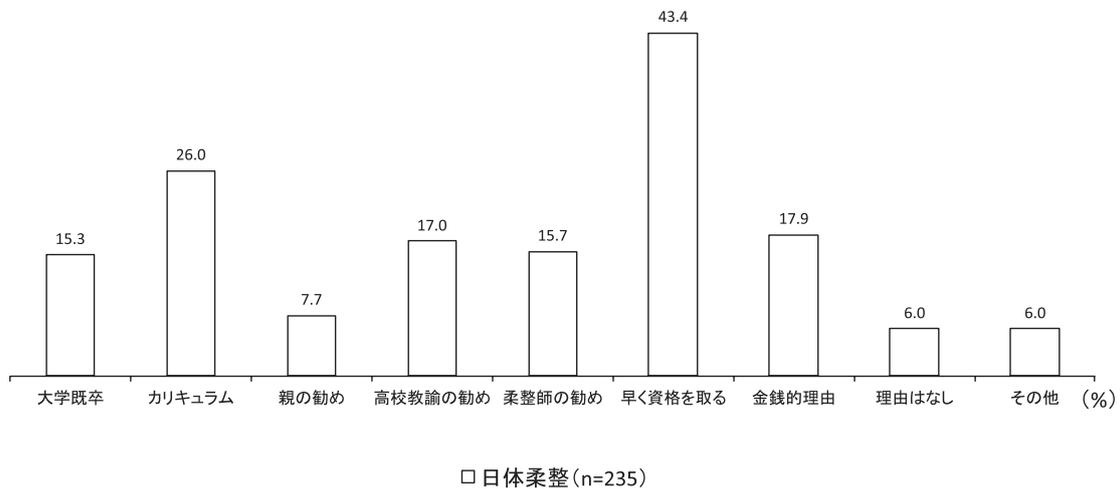


図5 専門学校への進学理由

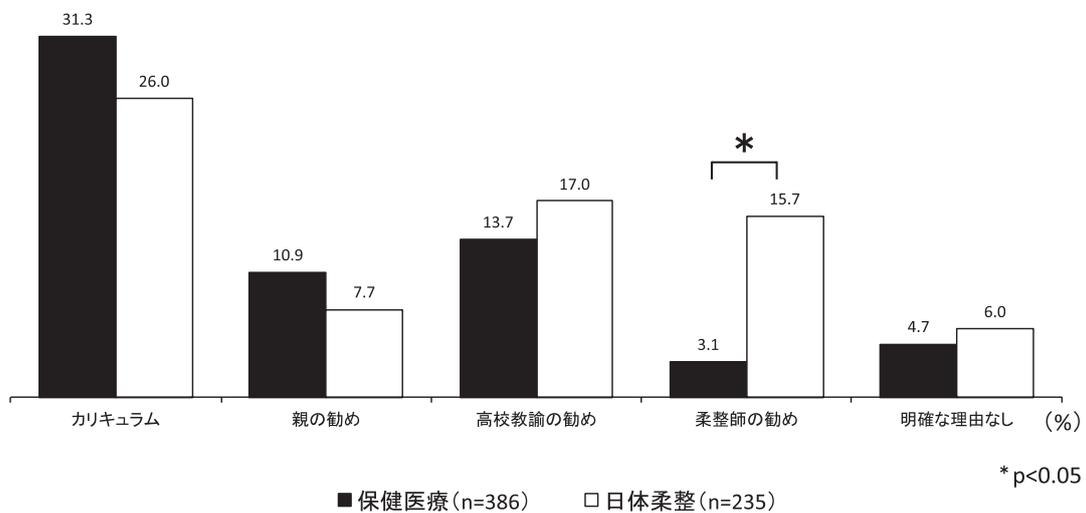


図6 大学と専門学校への進学理由（共通項目）の比較

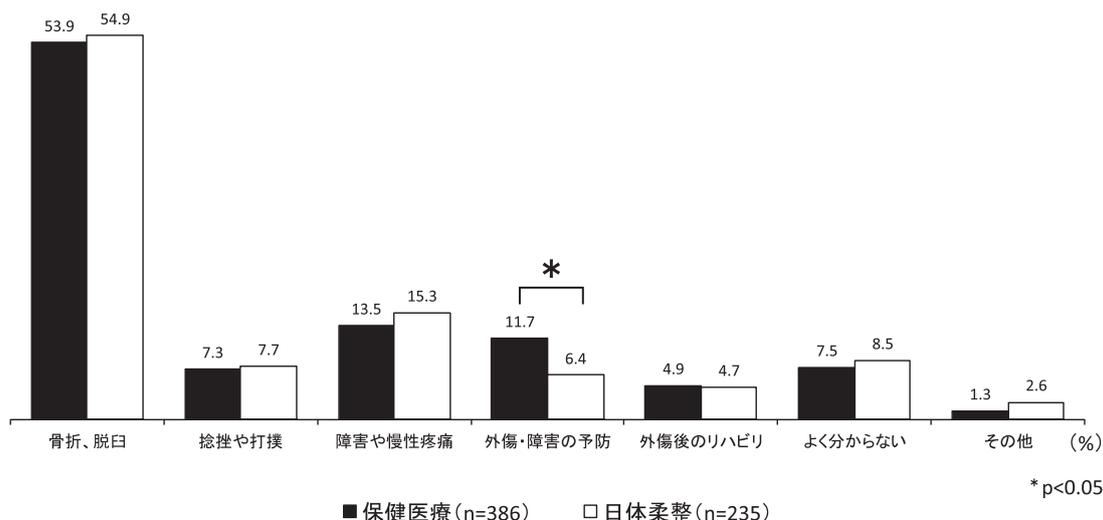


図7 柔道整復師の業務について

4. 考 察

1) 大学と専門学校に所属する学生の将来目標の相違について

柔道整復師免許を取得するという目的については整復医療学科と日体柔整の学生間に差はなく、ほとんどの学生が入学の時点で国家試験受験の意思を示した。また、資格取得後の目標についても、接骨院勤務、整形外科勤務、介護分野で勤務、スポーツジムへ勤務など多くの項目において両者の比率は類似した値であった。しかし接骨院開業とトレーナーとして勤務の項目においては有意差がみられた。全国柔道整復学校協会が5年に1回の割合で実施している全国の柔道整復師養成施設（専門学校）の卒業生に対するアンケート調査⁵⁾では、関連業務に従事している821名のうち、接骨院を既に開業している、あるいは今後具体的に開業する予定があると回答した人数は397名（48.4%）、接骨院を開業しないと答えた人数は138名（16.8%）であった。一方、大学生の接骨院開業に対する意識について、廣瀬⁶⁾は帝京大学の新生を対象に調査を行い、大学入学の時点で開業しないと答えた学生の割合は44.0%であったと報告した。調査の時期や調査項目が同一でないため一概に比較はできないが、我々の今回の調査でも両者の間に有意差を認めており、接骨院開業志向の低さは大学生の特徴といえる。

整復医療学科におけるもう一つの特徴としては、トレーナーとして勤務を希望する学生が多いことが挙げられる。今回の調査において整復医療学科でトレーナー勤務を目標とした学生は74.4%であったのに対し、日体柔整では46.8%であり、その割合には有意差がみられた。両校の新生に対する3年前の調査³⁾でも同様の結果が出ているが（整復医療学科70.8%、日

体柔整47.4%）、その差は3年間で拡大傾向にある。他大学の新生に対するアンケート調査でも、トレーナーとして勤務を希望する学生の割合は60.0%を越えると報告されており⁶⁾、トレーナー志向の高さは大学生全体の特徴と考えた。

2) トレーナーの資格取得について

前述の通り、トレーナーとして勤務を希望する学生の割合は整復医療学科で著明であるが、公認ATの資格取得に対する意識にも日体柔整との間に相違がみられる。整復医療学科では公認AT取得に対する意識が有意に高く、取得希望者は約85%に達していた。ただ、具体的に取得を考えている学生は22.3%に留まっており、公認AT取得に対する不透明感が窺える。

公認ATは、種々の資格が混在する日本のトレーナー制度に一定の基準を設けることを目的として、1994年より発足した日本体育協会の養成事業の一つで⁷⁾、オリンピックや国際大会、プロスポーツなどにおける選手とチームドクターとの橋渡し役を担ってきた。現在公認ATの資格を取得する方法は「日本体育協会加盟団体からの推薦を得た上で、養成講習会を受講する」または「アスレティックトレーナー免除適応コース承認校（大学、専門学校）に入学し指定のカリキュラムを修了後、日本体育協会が実施する筆記・実技試験に合格する」の何れかとなっている⁸⁾。日本体育大学体育学部は免除適応コース承認校であり、必要単位取得後には試験を受験することができる。しかし整復医療学科は承認校に該当していないため、本学科の学生が在学中に公認ATの資格を取得することは現時点では不可能である。資格取得の希望はあるが具体的な見通しがないという学生が多数存在していた今回のアンケート結果は、このような背景が反映されたも

のと思われる。

一方、日体柔整でトレーナーとしての勤務を希望している学生は、公認ATに対する認識が整復医療学科に比べ有意に低く、公認AT資格取得に対する意欲も低い傾向がみられた。また、トレーナーになるための方策についても明確な構想を持たない学生が多く、整復医療学科以上にトレーナーに対して漠然とした認識しかないと考えた。

3) 進学先の選択理由について

社団法人日本私立大学連盟が監修する「私立大学 学生生活白書 2011」によると、一般大学進学目的として最も回答が多かったのは大学卒の学歴を望んだという項目の56.6%であり、この学歴志向は近年明らかな増加傾向にあると報告されている⁹⁾。マーチン・トロウ¹¹⁾は「高等教育機関への進学率が50%に近づくことは、進学することが一種の義務と見なされる」と指摘をしているが、2016年における高等学校卒業生の大学・短期大学進学率は54.2%とされ¹⁰⁾、「何かを習得することを目的に大学へ進学するのではなく、大学へ進学すること自体が目的である」という傾向が強まっていると推測できる。今回のアンケート結果を見ても整復医療学科への進学理由として最も多かったのは大学卒業の経歴希望であり、高校生が進学先を選択する上で学歴は大きな要因になるといえる。学歴以外の項目では、部活動の継続、カリキュラムを理由とした学生が多くみられたが、特に部活動の継続に関しては大学において特有の項目であり、整復医療学科と日体柔整の大きな相違点と考えた。

日体柔整への進学は、3年間で資格取得が可能であることを選択の理由としてあげた学生が最も多く、43.4%であった。日体柔整においては、既に大学を卒業している学生が一定数おり、また学生の平均年齢も整復医療学科に比べ高いことから、短期間での資格取得を目指す学生の割合が多いと考えた。

進学理由のうち大学と専門学校に共通する項目についてみると、柔道整復師に勧められて進学先を決定したとする学生の割合に有意差があった。公益社団法人東京都柔道接骨師会（現東京都柔道整復師会）によると¹²⁾、2012年度の全国の接骨院数は42,431施設であり有資格者は83,049人とされている。この内、柔道整復師養成課程のある大学を卒業した柔道整復師数は、大学の総定員数および国家試験合格率から推測すると2012年の第20回国家試験時点で3,000人程度と考えられ、全柔道整復師の4%に満たない。従って、高校生が進学相談をする柔道整復師のほとんどは専門学校の卒業生と考えられ、専門学校への進学を奨励する傾向が強くなると考えた。ただ、冒頭で述べたように2015

年時点での大学定員は柔道整復師養成全体の約11%を占めており、今後はこの傾向に変化が生じる可能性がある。

4) 柔道整復師の業務に対する認識について

業務に対する学生の意識は外傷、障害の予防について有意差がみられたものの、他の項目については整復医療学科、日体柔整の間に相違はなく、概ね同じ認識であると思われる。

柔道整復師の業務は、厚生省（現厚生労働省）健康政策局医事課編の逐条解説に記載されている「骨折、脱臼、打撲、捻挫等に対しその回復を図る施術を業として行うものである（以下略）」¹³⁾という文言の通り、外傷に対する非観血的療法を施術の根幹としている。アンケートの結果では整復医療学科、日体柔整ともに50%以上の学生が骨折、脱臼、捻挫、打撲などの怪我を積極的に治療すべきという項目を選択しており、柔道整復師の業務を理解した上で進学している学生が多い。一方で捻挫、打撲を中心に治療する、スポーツ障害や慢性的疼痛の治療、予防に重点を置く、リハビリ施設として特化するなどを選択した学生も約4割存在しており、柔道整復師の業務に対する学生側の認識が多岐に渡っていることを示している。小玉ら¹⁴⁾は市民ランナーに対して実施した柔道整復師に関するアンケート調査において、骨折、脱臼、打撲、捻挫が接骨院で保険適応となること理解していた選手は約半数であったとし、柔道整復師の業務が正確に認識されていないと報告しているが、この背景には接骨院増加に伴う業態の変化があると考えた。つまり、接骨院においては従来の業務である骨折、脱臼などの外傷に対する施術だけでなく、スポーツ障害や保険適応外の慢性疼痛に対する施術なども自費診療の範囲で日常的に行われており、この業務の多様化が学生の柔道整復師の業務に対する認識に繋がっている可能性がある。柔道整復師国家試験問題の出題傾向を見ても、軟部組織損傷からの出題は増加しており¹⁵⁾、特に臨床実地問題でこの傾向は高い。多様化する業務に適応した柔道整復師の養成が大学、専門学校を問わず今後の養成施設の課題と考えた。

5. まとめ

- 1) 2014年から2017年に整復医療学科および日体柔整に入学した1年生626名のうち、同意を得た621名（整復医療学科386名、日体柔整235名）に対し、柔道整復師に関する意識調査アンケートを実施した。
- 2) アンケートの結果から、将来の目標に関しては日体柔整に比べ整復医療学科の方が接骨院の開業志

向が低く、トレーナーとしての勤務を希望する割合が高いことが理解できた。

- 3) トレーナーとしての勤務を希望する学生においては、整復医療学科の方が公認ATの資格取得に関する意識が高く、日体柔整でトレーナーを希望する学生は公認ATに対する認識が低い傾向がみられた。
- 4) 進学先の選択理由について、大学卒業の学歴は進学先を選択する上で大きな要因になると考えた。また、柔道整復師は専門学校を奨励する傾向が高かった。
- 5) 柔道整復師の業務に対する認識は整復医療学科と日体柔整の間に大きな相違はなく類似していると考えた。ただし、アンケートの結果から柔道整復師の業務に対する学生の認識は多岐に渡っており、多様化する業務に適応した柔道整復師の育成が今後の課題と考えた。

6. 文 献

- 1) 厚生労働省ホームページ, <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000106911.pdf#search=%27柔道整復師専門学校の総定員数%27>, (accessed 2017年2月1日)
- 2) 文部科学省ホームページ, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo9/shiryo/attach/1319879.htm, (accessed 2017年2月1日)
- 3) 服部辰広, 久保山和彦, 樋口毅史ほか: 柔道整復師養成課程に所属する大学生と専門学校生の柔道整復師に対する意識の相違について—2014年度入学生に対するアンケート調査より—. 日本体育大学紀要 44: 77-85, 2015.
- 4) 統計 Web, <https://software.ssri.co.jp/statweb2/> (accessed 2017年4月27日)
- 5) 公益社団法人 全国柔道整復学校協会: 第2回柔道整復師養成施設卒業生進路状況アンケート調査結果報

告書: 1-46, 2016.

- 6) 廣瀬文彦: 大学柔道整復科新入生の意識調査—2008年度入学—. 帝京大学スポーツ医療研究 創刊号: 33-38, 2009.
- 7) 財団法人日本体育協会: 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1 アスレティックトレーナーの役割, 東京, 2007.
- 8) 公益財団法人 日本体育協会ホームページ, <http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/259/Default.aspx>, (accessed 2017年8月2日)
- 9) 松尾哲矢編, 社団法人日本私立大学連盟監修: 私立大学学生生活白書2011, ウェイヴインターナショナル, 4-5, 東京, 2011.
- 10) マーチン・トロウ: 高学歴社会の大学—エリートからマスヘ—, 東京大学出版会, 東京, 1976.
- 11) 文部科学省ホームページ, 学校基本調査, http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_, (accessed 2017年8月3日)
- 12) 公益社団法人東京都柔道接骨師会: 柔整羅針盤 Compass (都柔接広報誌), 10, 東京, 2013.
- 13) 厚生省健康政策局医事課編著: 逐条解説 (あん摩マッサージ指圧師, はり師, きゅう師等に関する法律/柔道整復師法), 129-130, ぎょうせい, 東京, 1990.
- 14) 小玉京士朗, 中納正樹, 松井佑介ほか: 日吉ダムマラソン参加選手のスポーツ傷害と柔道整復師に関するアンケート調査. 柔道整復・接骨医学 12: 268, 2004.
- 15) 服部辰広, 久保山和彦, 猪越孝治ほか: 柔道整復師国家試験における臨床実地問題の出題傾向について—専門分野から出題された187問の調査・分析—. 日本体育大学紀要 46: 159-163, 2017.

<連絡先>

著者名: 服部辰広

住 所: 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町 1221-1

所 属: 日本体育大学保健医療学部整復医療学科運動器外傷学研究室

E-mail アドレス: t-hattori@nittai.ac.jp